

**株主優待制度について** 株主の皆様当社および当社商品に対するご理解を深めていただくため、株主優待制度を実施しています。



※写真は2006年度の実施内容です。

●優待制度の内容 (2006年度)

<上等洋食シリーズ>

- たいめいけん ポークカレー
- 小川軒 ビーフカレー

<本格中華シリーズ>

- 蟹肉菜湯かきのスープ
- 三絲魚翅ふかひれスープ

<スープ・スペシャルティシリーズ>

- クラムチャウダー
- コーンポタージュ

<アセロラシリーズ>

- アセロラドリンク復刻缶 190g
- アセロラドリンク190g缶
- アセロラちゃんグッズ
- アセロラビタミンCゼリー 180g

●対象

毎年3月31日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された単元株式数(1,000株)以上保有の株主様を対象とさせていただきます。

●お届け時期

7月上旬にお届けいたします。

●お問合せ先

**(03) 3248-2101** (代表)

受付時間：9:00～12:00 13:00～17:30  
 土、日、祝日は除く

**株主メモ**

- 事業年度 4月1日から翌3月31日まで  
 定時株主総会 6月  
 定時株主総会基準日 3月31日  
 期末配当金支払株主確定日 3月31日  
 中間配当金支払株主確定日 9月30日  
 上場証券取引所 東京・大阪  
 公告方法 当社公告につきましては、下記ホームページに掲載いたします。  
<http://www.nichirei.co.jp/>  
 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
- 株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
 みずほ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
- 〔郵便物送付先〕 〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号  
 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
- 電話お問合せ先 ☎ (03) 5213-5213 (代表) ☎ 0120-288-324
- 同取次所 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店  
 みずほインバスターズ証券株式会社 本店および全国各支店

**ご案内**

1. 住所、氏名、配当金の振込先等の変更および単元未満株式の買取り、買増しにつきましては、株主名簿管理人へお問合せのうえ、お手続きください。
2. 配当金を郵便貯金口座へお振り込みすることができます。お手続きには振込指定書のご提出が必要ですので、株主名簿管理人に指定用紙をご請求ください。



この報告書は、環境に優しい大豆油インキを使用して印刷しています。



Vol.16

第88期 グループ報告書  
 2005年4月1日～2006年3月31日



# 「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。

ニチレイは、品質へのあくなきこだわりと、培われた技術、新しいアイデア、グループトータルのネットワークによって、新鮮で、健康なおいしさをお届けし、笑顔のあふれる食卓を創り出していきます。

## Contents

株主の皆様へ	2
トップインタビュー	3
連結決算ハイライト	7
連結決算概要	8
単独決算ハイライト	14
単独決算概要	15
KEY WORD	17
INTRODUCTION	19
おいしさひと工夫	20
株式の状況	21
会社概要	22

## Profile 表紙絵の画家プロフィール

かないひでまさ  
金井英明氏  
1941年北海道生まれ。1963年、北海道学芸大学札幌分校特設美術課程デザイン科卒業。  
ミュンヘン大橋の景観デザインとバルコニーレリーフの制作、サッポロホワイトイルミネーションの創案・アートディレクションなどの他、幅広く創作活動を展開する。

## 株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。ここに第88期グループ報告書をお届けするにあたり、日頃のご支援に心から厚く御礼申し上げます。

当期は企業収益の改善が続き設備投資が増加するとともに、個人消費や雇用情勢が緩やかに上向くなど景気に回復が見られる状況となりました。

食品関連業界におきましては、鳥インフルエンザ問題や米国産牛肉の輸入再開への目処が見出せないなど、引き続き厳しい事業環境にありました。

このような経営環境のなか、当社グループは、当期より持株会社体制に基づくグループ経営に移行し、新たに策定した“「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。”というグループのブランドステートメントのもと、グループ戦略を担う持株会社と事業収益の向上をめざす各事業会社が各々の責任と役割を果たした結果、一定の成果を上げることができました。

## グループミッション・ビジョン

### ミッション【使命・存在意義】

くらしを見つめ、人々に心の満足を提供する。

### ビジョン【めざす姿】

ニチレイグループは、卓越した食品と物流のネットワークを備える「食のフロンティアカンパニー」として、お客様にご満足いただける優れた品質と価値ある商品・サービスを創造・提供し、広く好感と信頼を寄せられる企業として、社会とともに成長します。

当社グループは、今後も「徹底したお客様第一主義」を推進するとともに、グループガバナンス体制を一層強化し、企業としての社会的責任（CSR：Corporate Social Responsibility）を果たしながら、多様化するお客様の要望を的確に捉え、グループ全体の企業価値を高めてまいります。

「グループ中期経営計画（2004年度～2006年度）」の最終年度を迎え、競合他社との違いを明確にした成長戦略を積極的に進め、市場でイニシアティブの取れるポジションを堅固なものにする一方、厳しい環境に置かれている事業分野においては、経営革新を推し進めることによって、ステークホルダーの皆様のご期待に応えてまいります。

株主の皆様におかれましては、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2006年6月



代表取締役会長 大戸武元 代表取締役社長 浦聖光人



代表取締役社長 浦野 光人

## さらなる飛躍をめざし、 中期経営計画総仕上げの年、 グループ一丸となって事業運営を 推進し、企業価値を高めていきます。

昨年4月に持株会社体制に移行し1年が経過しました。2006年度は、中期経営計画(2004年度~2006年度)最終年度に当たります。

インタビューの前半部分は、大きな動きのありました2005年度を振り返り、その評価(成果)と2006年度の各事業の課題や取組みについて、後半部分は、ニチレイグループ全体で推進しています「企業の社会的責任」と「ブランド戦略」について聞きました。

### Q 持株会社体制に移行し1年が経過しました。 その評価(成果)をお聞かせください。

持株会社体制に移行し1年を経て感じることは、分社したことにより、各事業会社における経営の意思決定のプロセスに、多くの人が参加するようになってきたことです。開発・生産・物流・営業・管理の5つの機能が知恵をだし合って意思決定する姿を見ますと、これが非常に大きな成果だと感じます。

そして、昨年分社した際に、コーポレート・ガバナンスのあり方を組織的に大きく変えました。具体的には、持株会社に事業経営支援グループを設け、事業会社の監査役を兼ねた経験豊富な担当を各社ごとに2名配置しました。そこで各社のモニタリングとともに、情報

交換や戦略策定支援を行いました。これらが円滑に機能したことも大きな成果です。

2005年度のニチレイグループ連結業績は、売上高4,694億円、営業利益160億円となり、ほぼ計画を達成しましたが、個別の事業では課題も残りました。喫緊の課題は、中期経営計画からの乖離が大きい事業の立て直しです。一方、好調な事業については、収益率アップと成長戦略をいかに図っていくかが課題といえるでしょう。

総体的には、期待していた持株会社体制への移行効果が現れ始めていることから、まずまずの成果が得られた1年であったと考えます。

### Q 中期経営計画の進捗状況と2005年度の業績評価をお聞かせください。

今回の中期経営計画では、加工食品事業、水産事業、畜産事業、低温物流事業、バイオサイエンス事業、フラワー事業という事業ドメインを改めて見直しました。中期経営計画のポイントとしては、「コア事業における成長戦略」と「資本効率の向上と適正化」を掲げ、各事業においてとり進めてきました。

その結果、コア事業の1つである加工食品事業については、営業利益54億円となりました。これは、生産工場での合理化努力を継続した結果、コストダウンの効果が出てきたことと、売るべき商品の整理を行ったことから、業務用で売上増加と利益確保ができたことによるものです。

また、もう1つのコア事業である低温物流事業も、営業利益58億円と好調に推移し目標を達成しました。特に地域保管事業が好調で、売上増加とコスト削減の両方が相まって、V字回復に近い状況になっています。一方、成長事業として期待されるネットワーク事業は、立ち上げ時のコスト面や輸配送で課題を残しました。

畜産事業においては、鳥インフルエンザ等の影響で業界全体が苦しむなか、利益を確保することができましたが、水産事業は伸び悩み、16億円の営業赤字となりました。

また、バイオサイエンス事業においても、機能性素材のアセロラパウダーが苦戦し、若干の黒字とはなりましたが、中期経営計画とは大きく乖離した結果とな

りました。この2つの事業につきましては、2006年度に再生を図る必要性があると認識しています。

### Q 中期経営計画最終年度(2006年度)に向けての主な取組み方針をお願いします。

#### 〈加工食品事業〉

人口減少や高齢化が進む事業環境のなかにおいても、食品産業が需要を発掘していける余地はあります。ニチレイグループが今、ターゲットとして定めているのが「健康価値」です。予防医療の観点より、普段の食事から肥満を防止することが非常に大切なことで、そこに大きなマーケットがあると思っています。

ニチレイグループは、糖尿病食における技術では、大きなアドバンテージを持っていますので、それをベースにカロリーを調整した惣菜セットを提案していきます。本年4月には、糖尿病食の技術と上等洋食シリーズで培ったおいしさを組み合わせた商品「気くばり御膳 シェフズバランス」を発売しました。



気くばり御膳 シェフズバランス (左:商品、右:盛りつけ例)  
ハンバーグステーキデミグラスソースセット (310kcal)



今後は、「健康価値」にフォーカスし、商品提供のほか、健康に配慮した暮らし方や運動方法など多様な情報を提供しつつ、お客様とのコミュニケーションを深めていきたいと考えています。

〈水産事業〉

事業の立て直しが急務です。今まで得意としていた素材について産地状況や需要状況が大きく変わるなか、それを捉えきれなかったことが原因でした。

今後は、タコやホタテ、エビといった得意分野の素材を再度見直し、磨きこみ、光らせていくことで収益力アップを図っていききたいと考えています。

〈低温物流事業〉

いかに物流センターや輸配送車輛の回転率を上げ、コストを削減するかが課題となります。ニチレイグループは積極的にお客様に「共同物流」の提案を行うとともに、M&Aも視野に入れながら輸配送のノウハウを構築していく計画です。

Q 企業の社会的責任（以下、CSRと表記）への取り組みをお聞かせください。

ニチレイグループにおけるCSRの定義は、経営理念、ビジョンを実現することそのものです。その定義に従い、ニチレイグループ「6つの責任」を整理しました。（右記表をご参照ください。）

また、組織においてもニチレイグループ全体のCSR推進を図るため、(株)ニチレイにCSR本部を設置しました。持株会社の7つの部署（品質保証グループ、経営監査グループ、事業経営支援グループ、経営企画グループ、総務企画グループ、財務グループ、広報IRグループ）がCSR本部に所属し、各事業会社（(株)ニチレイフーズ、(株)ニチレイフレッシュ、(株)ニチレイロジグループ本社、(株)ニチレイバイオサイエンス、(株)ニチレイプロサーヴ）と連携して「6つの責任」を遂行していきます。

Q 企業イメージ向上の一環として取り組んでいるブランド戦略についてお聞かせください。

企業イメージ向上の一環として取り組んでいるブランド戦略ですが、昨年3月に“「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。”というブランドステートメントを会社創立60周年にあわせ、新聞などで告知しました。これがニチレイグループ全体の求心力を高める意味で非常に役立ちました。

表：ニチレイグループ「6つの責任」

6つの責任	目標	具体的な取組み(案)
新たな顧客価値の創造	新たな商品やサービスを創り出し、生活者の課題解決をする	○安全・安心のさらなる徹底 ○サプライチェーンマネジメントの着手
働きがいの向上	従業員の働きがいを高める	○ワーク・ライフ・バランスの実現(仕事と生活の両立) ○ダイバーシティの推進(障害者雇用・高齢者等の雇用の安定等に関する法律の一部を改正する法律への対応)
コンプライアンス(法令遵守)の徹底	法律や規制を守り、倫理性を高める	○CSR視点による行動規範の改訂とその浸透 ○情報セキュリティ対策の強化(個人情報保護を含む)
コーポレート・ガバナンス(企業統治)の確立	透明で迅速な経営を行う	○組織移行後の権限委譲と統治機構の明確化 ○内部監査機能の強化
環境への配慮	地球環境への負荷を軽減する	○ゼロエミッションやエネルギーコストの削減 ○冷凍食品の包材の削減 ○低温物流事業における共同物流によるCO <sub>2</sub> 削減や輸送手段を環境負荷の低い船や鉄道利用に変えていくモダールシフト
ニチレイらしい社会貢献の推進	「食」「健康」「運動」をキーワードとした社員参加型の社会貢献の推進	○「食」「健康」「運動」をキーワードとした貢献活動の推進 ○ニチレイふれあい財団(仮)の設立検討 ○ステークホルダーとのコミュニケーションの強化

Q 株主の皆様へのメッセージをお願いいたします。

ニチレイグループは、ここ10年財務体質の改善に取り組んできました。一時は、2,000億円以上にもおよぶ有利子負債がありましたが、2006年3月末には、すでに900億円を下回るまでできており、目標を達成したところでした。財務体質はスリムになり、キャッシュ・フローも確実に上がってきましたので、今後は、このキャッシュ・フローを生かすとともに市場での資金調達を含め成長分野に投資していく時期になったかと考えています。特に、加工食品事業、低温物流事業では積極的な投資を行いたいと考えております。

配当については、従来は安定配当を基本方針としてきましたが、今後は、利益額を見据えながら新しい指

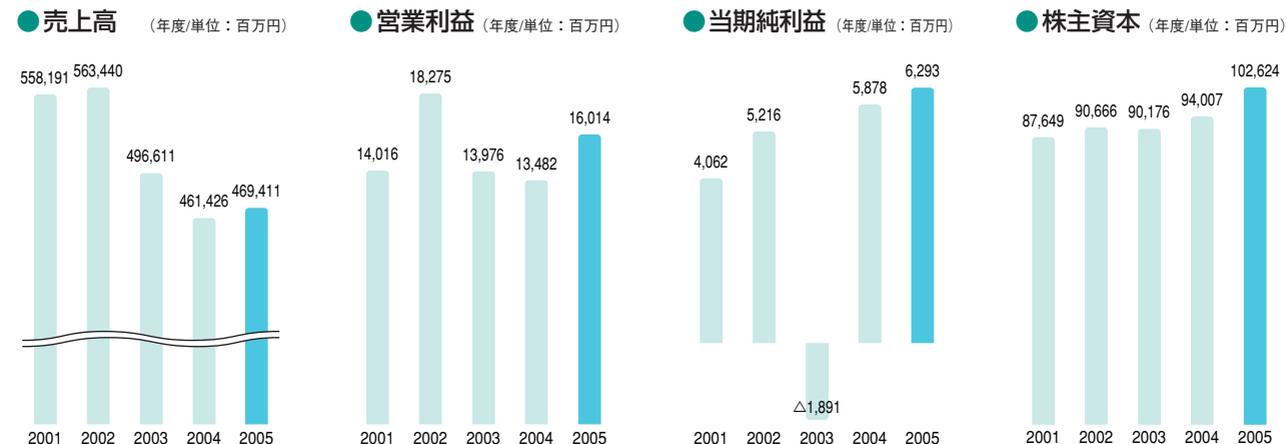
標にもとづく配当額の算出法を導入しようと検討しております。決定次第ご報告申し上げます。

ニチレイグループは、今後も生活者の皆様の健康に貢献できる、付加価値の高い商品を創出し、6つの責任を遂行することで、さらなる顧客満足度の向上をめざしてまいります。

株主の皆様におかれましては、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



# 連結決算ハイライト



区分	単位	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
売上高	百万円	558,191	563,440	496,611	461,426	469,411
営業利益	百万円	14,016	18,275	13,976	13,482	16,014
経常利益	百万円	11,684	16,283	12,095	12,893	15,660
当期純利益	百万円	4,062	5,216	△ 1,891	5,878	6,293
総資産	百万円	353,385	330,703	284,700	276,417	268,501
株主資本	百万円	87,649	90,666	90,176	94,007	102,624
1株当たり当期純利益	円	13.06	16.16	△ 6.28	18.45	19.83
1株当たり株主資本	円	282.00	291.46	290.38	302.50	330.40
設備投資額	百万円	9,020	7,649	5,184	4,968	6,553
減価償却費	百万円	13,570	12,767	11,904	11,139	10,775
有利子負債	百万円	167,439	145,394	124,388	111,984	86,209
従業員数	名	6,761	6,622	5,770	5,575	5,603

(注) 1. △印は損失を示しています。  
 2. 2002年度から1株当たりに関する指標は、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号) および「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号) を適用して算出しています。

# 連結決算概要

● 連結子会社数 64社 ● 持分法適用関連会社数 16社

当期の連結業績は、水産事業が前期に引き続き苦戦を強いられましたが、コア事業の加工食品事業および低温物流事業がほぼ当初の計画どおり推移したことにより、売上高が4,694億11百万円(前期比1.7%の増収)、営業利益は160億14百万円(前期比18.8%の増益)となりました。経常利益につきましては、有利子負債の削減が計画どおり進み金融収支が改善したことにより156億60百万円(前期比21.5%の増益)を計上することができました。

特別利益につきましては、資産の効率活用を目的とした流動化を行い、固定資産売却益54億53百万円、

投資有価証券売却益9億70百万円を計上するなど、その総額は66億29百万円となりました。一方、特別損失は総額91億51百万円で、その主な内訳は、固定資産の減損に係る会計基準の適用による減損損失41億53百万円、資産の健全化などを目的とした固定資産売却損24億21百万円、および事業所閉鎖損失14億39百万円などでありました。

特別利益・損失、税金費用、ならびに少数株主利益を加減算した当期純利益は62億93百万円(前期比7.1%の増益)となりました。

## セグメント情報

**当期** 2005年4月1日から2006年3月31日まで (単位: 百万円)

	売上高	営業費用	営業利益
加工食品事業	184,844	179,390	5,454
水産事業	81,068	82,728	△1,659
畜産事業	84,641	84,331	309
低温物流事業	127,077	121,252	5,825
不動産事業	10,022	3,875	6,146
その他の事業	8,731	8,673	58
計	496,386	480,251	16,135
消去または全社	(26,975)	(26,854)	(121)
連結	469,411	453,397	16,014

**前期** 2004年4月1日から2005年3月31日まで (単位: 百万円)

	売上高	営業費用	営業利益
加工食品事業	178,548	174,262	4,285
水産事業	89,998	90,976	△ 977
畜産事業	84,745	84,297	447
低温物流事業	116,671	113,094	3,577
不動産事業	9,230	3,227	6,003
その他の事業	8,235	8,079	155
計	487,430	473,938	13,492
消去または全社	(26,003)	(25,993)	(10)
連結	461,426	447,944	13,482

(注) 持株会社体制への移行に伴い、当期との比較のため前期データを組み替えて記載しています。

# 連結決算概要

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

## 連結貸借対照表

区 分	当 期		前 期		
	2006年3月31日現在	2005年3月31日現在	2006年3月31日現在	2005年3月31日現在	
<b>流 動 資 産</b>	<b>108,185</b>	<b>108,835</b>	<b>流 動 負 債</b>	<b>83,064</b>	<b>93,380</b>
現金及び預金	3,290	3,087	支払手形及び買掛金	25,994	24,563
受取手形及び売掛金	64,315	64,150	短期借入金	13,001	16,289
たな卸資産	31,037	33,065	コマーシャルペーパー	—	15,000
繰延税金資産	3,138	3,460	長期借入金(1年以内返済)	1,645	8,187
その他の流動資産	6,698	5,357	社債(1年以内償還)	10,000	—
貸倒引当金	△ 295	△ 285	未払費用	19,254	18,615
<b>固 定 資 産</b>	<b>160,316</b>	<b>167,581</b>	未払法人税等	3,505	1,648
有形固定資産	108,041	116,963	その他の流動負債	9,664	9,075
建物及び構築物	186,796	191,248	<b>固 定 負 債</b>	<b>82,181</b>	<b>88,399</b>
減価償却累計額	121,823	120,875	社 債	25,000	35,000
機械装置及び運搬具	57,733	57,427	長期借入金	36,562	37,506
減価償却累計額	43,196	41,885	繰延税金負債	3,134	391
土地	26,087	29,486	退職給付引当金	3,275	3,387
建設仮勘定	1,058	14	役員退職慰労引当金	504	596
その他の有形固定資産	7,379	7,483	預り保証金	11,426	11,421
減価償却累計額	5,993	5,936	連結調整勘定	36	21
無形固定資産	3,718	7,229	リース資産減損勘定	2,196	—
連結調整勘定	70	139	その他の固定負債	44	73
その他の無形固定資産	3,648	7,090	<b>負 債 合 計</b>	<b>165,246</b>	<b>181,779</b>
投資その他の資産	48,555	43,388	<b>少 数 株 主 持 分</b>	<b>630</b>	<b>630</b>
投資有価証券	34,580	27,623	<b>資 本 金</b>	<b>30,307</b>	<b>30,307</b>
繰延税金資産	1,627	3,219	<b>資 本 剰 余 金</b>	<b>23,706</b>	<b>23,705</b>
その他の投資その他の資産	13,497	13,803	<b>利 益 剰 余 金</b>	<b>39,627</b>	<b>35,495</b>
貸倒引当金	△ 1,148	△ 1,257	<b>そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金</b>	<b>8,353</b>	<b>4,533</b>
<b>資 産 合 計</b>	<b>268,501</b>	<b>276,417</b>	<b>為 替 換 算 調 整 勘 定</b>	<b>890</b>	<b>189</b>
			<b>自 己 株 式</b>	<b>△ 261</b>	<b>△ 224</b>
			<b>資 本 合 計</b>	<b>102,624</b>	<b>94,007</b>
			<b>負債、少数株主持分及び資本金合計</b>	<b>268,501</b>	<b>276,417</b>

(注) 保証債務 2,958百万円

(単位:百万円)

## 貸借対照表のポイント

※ポイントは億円単位で、単位未満を切り捨てて表示しています。

### 流動資産 1,081億円 (前期末比6億円の減少)

- 受取手形及び売掛金: 643億円 (1億円の増加)
- たな卸資産: 310億円 (20億円の減少)
  - ・在庫水準の適正化を進めたことなどによる
- その他の流動資産: 66億円 (13億円の増加)
  - ・固定資産の売却などにより未収入金が27億円増加
  - ・前期末に比べ円安になったことからクーポンスワップなどデリバティブ取引の時価評価差額が15億円減少

### 固定資産 1,603億円 (前期末比72億円の減少)

- 有形固定資産: 1,080億円 (89億円の減少)
  - ・設備投資により65億円増加
  - ・土地等の減損処理に伴い17億円減少
  - ・減価償却89億円、除却・売却47億円などにより137億円減少
- 無形固定資産: 37億円 (35億円の減少)
  - ・ソフトウェアの売却や減価償却などによる
- 投資その他の資産: 485億円 (51億円の増加)
  - ・投資有価証券で、株価上昇に伴う時価評価額の増加や持分法投資利益の計上により関係会社株式が増加し69億円増加
  - ・繰延税金資産で、その他有価証券評価差額金に係る繰延税金負債との相殺額が増加したことなどから15億円減少

### 流動負債 830億円 (前期末比103億円の減少)

- 支払手形及び買掛金: 259億円 (14億円の増加)
- 短期借入金: 130億円 (32億円の減少)
- コマーシャルペーパー: 1億円 (150億円の減少)
- 長期借入金(1年以内返済): 16億円 (65億円の減少)
  - ・返済82億円、長期借入金からの振替17億円
- 社債(1年以内償還): 100億円 (100億円の増加)
  - ・第15回無担保社債(償還期限2006年5月2日)の振替

### 固定負債 821億円 (前期末比62億円の減少)

- 社債: 250億円 (100億円の減少)
  - ・社債(1年以内償還)への振替
- 長期借入金: 365億円 (9億円の減少)
  - ・借入8億円、長期借入金(1年以内返済)への振替17億円
- 繰延税金負債: 31億円 (27億円の増加)
  - ・その他有価証券評価差額金の増加
- リース資産減損勘定: 21億円 (21億円の増加)
  - ・リース資産の減損処理による計上

### 利益剰余金 396億円 (前期末比41億円の増加)

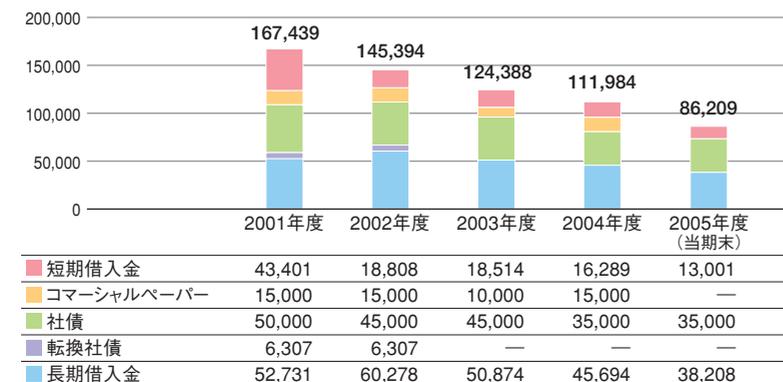
- 当期純利益による増加62億円
- 前期の利益処分および中間配当金による減少19億円

### その他有価証券評価差額金 83億円 (前期末比38億円の増加)

- 株価上昇などにより増加

## 有利子負債の状況

(単位:百万円)



## 有利子負債のポイント

※ポイントは億円単位で、単位未満を切り捨てて表示しています。

当期末の有利子負債残高は862億円(前期末比257億円の減少)となり、2007年3月期の目標数値である970億円以下を前倒しで達成することができました。

なお、引き続き有利子負債を大幅に削減したことから、当期の金融収支は10億円のマイナスとなり、前期に比べ3億円改善しました。

(注)1. 有利子負債期末残高は、短期・長期借入金、コマーシャルペーパー、社債、転換社債の各期末残高の合計額です。

2. 金融収支は、受取利息と受取配当金の合計額から支払利息とコマーシャルペーパー利息の合計額を控除した金額です。

# 連結決算概要

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

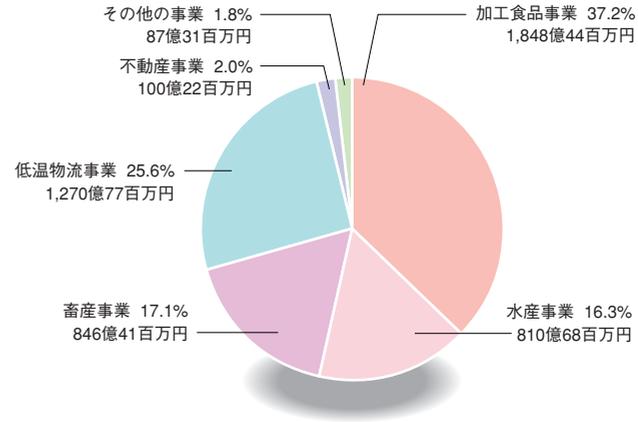
## 連結損益計算書

(単位：百万円)

区 分	当 期 2005年4月 1日から 2006年3月31日まで	前 期 2004年4月 1日から 2005年3月31日まで
売上高	469,411	461,426
売上原価	377,834	372,589
売上総利益	91,577	88,836
販売費及び一般管理費	75,563	75,354
営業利益	16,014	13,482
営業外収益	2,749	3,178
受取利息	71	62
受取配当金	249	225
持分法による投資利益	1,071	1,423
その他の営業外収益	1,357	1,466
営業外費用	3,103	3,766
支払利息	1,374	1,657
たな卸資産廃棄損	327	422
その他の営業外費用	1,402	1,686
経常特別利益	15,660	12,893
特別利益	6,629	3,490
固定資産売却益	5,453	569
投資有価証券売却益	970	1,288
貸倒引当金戻入益	93	103
関係会社増資によるみなし売却益	58	—
関係会社株式売却益	52	472
転籍に伴う退職給付債務戻入益	—	908
事業所閉鎖損失戻入益	—	148
特別損失	9,151	5,553
固定資産売却損	2,421	916
固定資産除却損	607	629
減損損失	4,153	—
事業所閉鎖損失	1,439	346
特別退職金	530	987
販売用不動産評価損	—	942
営業権評価損	—	513
持株会社体制移行関連費用	—	441
厚生年金基金脱退に伴う拠出金	—	428
先渡契約損失	—	158
関係会社株式売却損	—	127
投資有価証券評価損	—	62
税金等調整前当期純利益	13,138	10,830
法人税、住民税及び事業税	4,499	2,383
過年度法人税等戻入額	—	298
法人税等調整額	2,247	2,779
少数株主利益	98	87
当期純利益	6,293	5,878

(注) 1株当たり当期純利益 19円83銭

## セグメント別売上高構成比



## 連結剰余金計算書

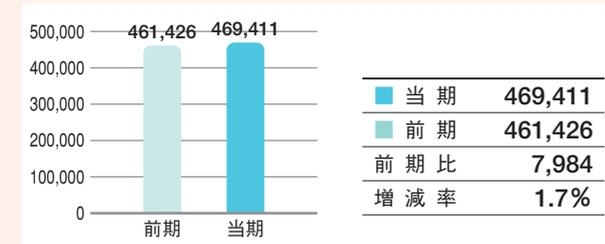
(単位：百万円)

区 分	当 期 2005年4月 1日から 2006年3月31日まで	前 期 2004年4月 1日から 2005年3月31日まで
資本剰余金の部		
資本剰余金期首残高	23,705	23,704
資本剰余金増加高	1	0
自己株式処分差益	1	0
資本剰余金期末残高	23,706	23,705
利益剰余金の部		
利益剰余金期首残高	35,495	31,525
利益剰余金増加高	6,293	5,878
当期純利益	6,293	5,878
利益剰余金減少高	2,160	1,908
配当金	1,862	1,862
役員賞与	135	45
在外連結子会社の会計基準変更による減少額	162	—
利益剰余金期末残高	39,627	35,495

※ポイント(グラフ以外)は億円単位で、単位未満を切り捨てて表示しています。

## 売上高

(単位：百万円)

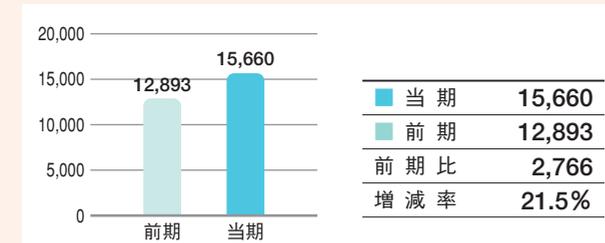


ポイント 4,694億円 (前期比79億円の増収)

- 低温物流事業では、前期に新設した物流センターが大きく貢献し物流ネットワーク事業が大幅な増収
- 加工食品事業はチキン加工品、食肉加工品、常温食品などのカテゴリーが好調に推移し増収
- 水産事業は買付価格の高騰から主力商品の取扱いを絞り込んだことなどにより減収

## 経常利益

(単位：百万円)

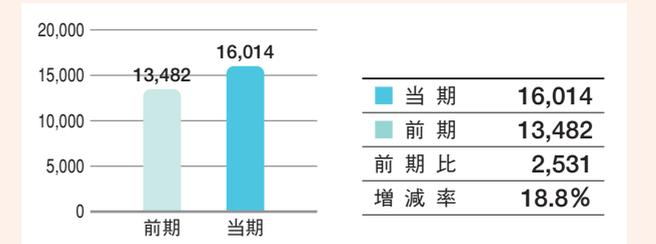


ポイント 156億円 (前期比27億円の増益)

- 営業外損益 △3億円
- ・金融収支 △10億円
- ・有利子負債の削減が進んだことから3億円改善
- ・持分法による投資利益 10億円

## 営業利益

(単位：百万円)

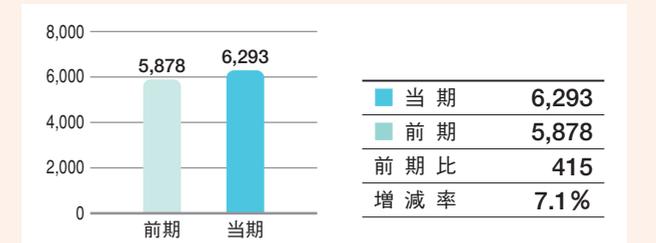


ポイント 160億円 (前期比25億円の増益)

- 低温物流事業では、物流ネットワーク事業や地域保管事業が好調に推移し増益
- 加工食品事業は売上げの増加やグループ内生産工場の操業率改善などにより増益
- 不動産事業は土地売却の増加などにより増益
- 販売費：448億円 (前期比4億円増加)
  - ・家庭用調理冷凍食品の販売拡大とブランド戦略の相乗効果を狙い、販売促進費を上半期を中心に積極投入

## 当期純利益

(単位：百万円)



ポイント 62億円 (前期比4億円の増益)

- 特別利益 66億円
  - ・福岡市博多区所在の土地や、大阪市中央区および神奈川県茅ヶ崎市所在の土地・建物等一式の売却などにより固定資産売却益54億円を計上
- 特別損失 91億円
  - ・固定資産・リース資産の減損損失41億円を計上
  - ・資産の健全化などを目的とした固定資産売却損24億円を計上
  - ・生産工場や物流拠点の再編等に伴う事業所閉鎖損失14億円を計上

# 連結決算概要

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

## 連結キャッシュ・フロー計算書

区 分	当 期	前 期
	2005年4月 1日から 2006年3月31日まで	2004年4月 1日から 2005年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	13,138	10,830
減 価 償 却 費	10,775	11,139
減 損 損 失	4,153	—
貸倒引当金の増加額(△減少額)	△ 39	140
退職給付引当金の増加額(△減少額)	△ 334	377
前払年金費用の増加額	△ 53	△ 2,369
持分法による投資利益	△ 1,071	△ 1,423
固 定 資 産 除 却 損	365	428
事業所閉鎖損失	1,213	118
事業所閉鎖損失戻入益	—	△ 161
投資有価証券評価損	—	62
販売用不動産評価損	—	942
営業権評価損	—	513
関係会社増資によるみなし売却益	△ 58	—
先 渡 契 約 損 失	—	158
受取利息及び受取配当金	△ 320	△ 288
支 払 利 息	1,374	1,657
固定資産売却損(△売却益)	△ 3,032	347
投資有価証券売却益	△ 970	△ 1,288
関係会社株式売却益	△ 52	△ 344
持株会社体制移行関連費用	—	339
厚生年金基金脱退に伴う拠出金	—	221
売上債権の増加額	△ 139	△ 5,049
たな卸資産の減少額(△増加額)	1,624	△ 1,105
仕入債務の増加額	1,431	1,342
そ の 他	△ 704	3,044
( 小 計 )	27,297	19,634
利息及び配当金の受取額	525	662
利息の支払額	△ 1,355	△ 1,691
法人税等の支払額	△ 2,583	△ 3,040
( 計 )	23,883	15,564

(単位：百万円)

区 分	当 期	前 期
	2005年4月 1日から 2006年3月31日まで	2004年4月 1日から 2005年3月31日まで
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△ 4,564	△ 5,317
有形固定資産の売却による収入	8,500	2,278
投資有価証券の取得による支出	△ 682	△ 186
投資有価証券の売却による収入	1,695	4,664
短期貸付金の純減少額(△純増加額)	△ 77	1
長期貸付けによる支出	—	△ 1
長期貸付金の回収による収入	3	33
そ の 他	△ 1,211	△ 2,309
( 計 )	3,663	△ 837
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純減少額	△ 3,266	△ 3,094
コマーシャルペーパーの純増加額(△純減少額)	△ 15,000	5,000
長期借入れによる収入	800	4,503
長期借入金の返済による支出	△ 8,271	△ 9,735
社債の償還による支出	—	△ 10,000
配当金の支払額	△ 1,864	△ 1,865
そ の 他	42	10
( 計 )	△ 27,559	△ 15,180
現金及び現金同等物に係る換算差額	215	△ 2
現金及び現金同等物の増加額(△減少額)	203	△ 456
現金及び現金同等物の期首残高	3,087	3,543
現金及び現金同等物の期末残高	3,290	3,087

## キャッシュ・フロー計算書のポイント

※ポイントは億円単位で、単位未満を切り捨てて表示しています。

### 営業活動によるキャッシュ・フロー 238億円の収入(前期比83億円の増加)

- 売上高の増加や有利子負債の減少に伴う金融収支の改善などにより経常利益は前期に比べ27億円増加
- 営業資金の収支は、在庫水準の適正化を進めたことなどから前期に比べ77億円改善

### 投資活動によるキャッシュ・フロー 36億円の収入(前期比45億円の増加)

- 有形固定資産の売却による収入が増加し前期に比べ69億円の増加
- 投資有価証券の売却による収入が減少し前期に比べ29億円の減少

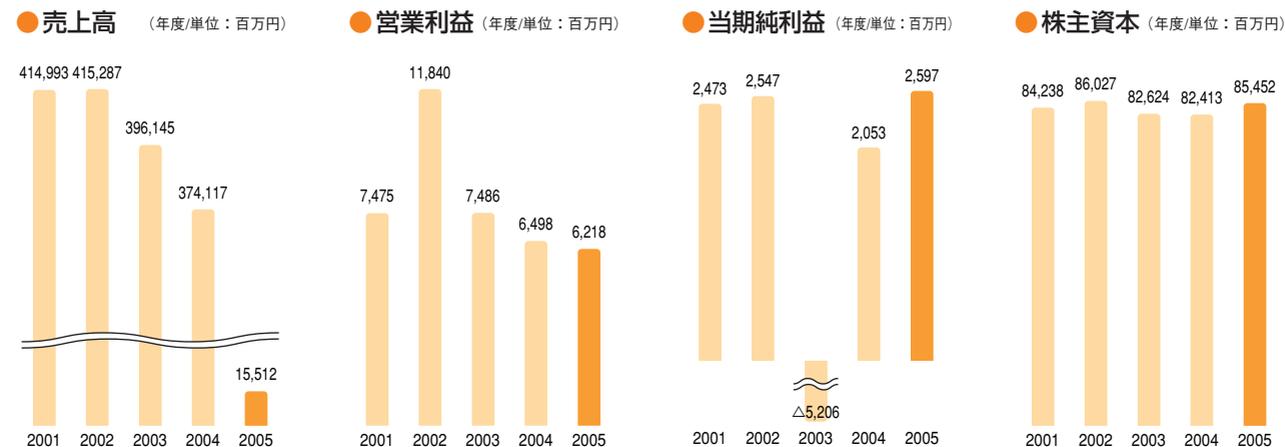
### 財務活動によるキャッシュ・フロー 275億円の支出(前期比123億円の増加)

- 借入金の返済などにより257億円の支出
- 配当金の支出が18億円

以上により、現金及び現金同等物の期末残高は、前期末に比べ2億3千万円増加し32億90百万円となりました。

# 単独決算ハイライト

(注) 2005年4月1日付で持株会社体制へ移行したことにより、当期から当社の単独決算数値は持株会社としての実績値となっております。



区 分	単位	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
売 上 高	百万円	414,993	415,287	396,145	374,117	15,512
営 業 利 益	百万円	7,475	11,840	7,486	6,498	6,218
経 常 利 益	百万円	7,374	11,214	7,532	6,851	6,879
当 期 純 利 益	百万円	2,473	2,547	△ 5,206	2,053	2,597
総 資 産	百万円	273,597	261,784	256,982	301,285	184,818
株 主 資 本	百万円	84,238	86,027	82,624	82,413	85,452
1株当たり当期純利益	円	7.95	7.94	△ 16.76	6.32	8.25
1株当たり株主資本	円	271.02	276.77	266.13	265.24	275.28
設 備 投 資 額	百万円	5,936	5,202	3,246	2,556	474
減 価 償 却 費	百万円	8,438	8,616	7,005	6,875	1,730
有 利 子 負 債	百万円	116,203	104,593	110,238	100,718	77,831
従 業 員 数 名		1,832	1,792	1,691	1,192	75

- (注) 1. △印は損失を示しています。  
 2. 2002年度から1株当たりに関する指標は、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号)および「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号)を適用して算出しています。  
 3. 2004年度の有利子負債は、「会社分割」に伴い各事業会社に承継させるため実施した、株式会社ニチレイ・アプリ(現 株式会社ニチレイプロサーヴ)からの借入金(関係会社短期借入金)50,300百万円を除いています。

# 単独決算概要

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

## 単独貸借対照表

区 分	当 期	前 期
	2006年3月31日現在	2005年3月31日現在
流 動 資 産	35,734	148,611
現金及び預金	812	1,166
受取手形	—	892
売掛金	37	51,369
有価証券	100	—
商品及び製品	648	28,897
未着商	—	689
販売用不動産	2,141	—
貯蔵品	6	35
前渡金	—	70
前払費用	172	829
繰延税金資産	1,785	2,662
関係会社短期貸付金	27,775	58,998
未収入金	2,114	956
繰延ヘッジ損失	—	2,098
その他の流動資産	183	295
貸倒引当金	△ 43	△ 348
固 定 資 産	149,083	152,673
有形固定資産	18,737	82,768
建物	16,561	49,479
構築物	598	1,560
機械及び装置	121	6,767
車両及び運搬具	0	0
工具、器具及び備品	420	718
土地	1,036	24,241
無形固定資産	527	4,504
借地権	0	621
ソフトウェア	504	3,823
その他の無形固定資産	23	59
投資その他の資産	129,818	65,400
投資有価証券	19,883	19,461
関係会社株式	73,778	12,542
出資	216	10
関係会社出資金	120	4,060
関係会社長期貸付金	33,916	16,136
破産・再生・更生債権等	130	710
長期前払費用	9	712
繰延税金資産	—	2,641
敷金・保証金	1,398	5,746
前払年金費用	—	3,804
その他の投資その他の資産	660	1,270
投資損失引当金	—	△ 490
貸倒引当金	△ 294	△ 1,205
資 産 合 計	184,818	301,285

(注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 17,343百万円  
2. 保証債務 15,736百万円

(単位：百万円)

区 分	当 期	前 期
	2006年3月31日現在	2005年3月31日現在
流 動 負 債	27,394	133,463
支払手形	—	21
買掛金	21	29,038
短期借入金	9,556	11,755
関係会社短期借入金	—	50,300
コマーシャルペーパー	—	15,000
長期借入金(1年以内返済)	373	6,487
社債(1年以内償還)	10,000	—
未払金	151	2,863
未払費用	455	11,496
未払法人税等	99	74
前受金	134	553
預り金	6,501	3,647
デリバティブ債務	—	2,098
その他の流動負債	99	127
固 定 負 債	71,971	85,408
社債	25,000	35,000
長期借入金	32,902	32,475
繰延税金負債	402	—
退職給付引当金	284	972
役員退職慰労引当金	303	430
預り保証金	10,883	16,530
リース資産減損勘定	2,196	—
負 債 合 計	99,366	218,871
資 本 金	30,307	30,307
資 本 剰 余 金	23,706	23,705
資本準備金	7,604	7,604
その他資本剰余金	16,101	16,100
資本準備金減少差益	16,100	16,100
自己株式処分差益	1	0
利 益 剰 余 金	25,287	24,641
利益準備金	39	39
任意積立金	21,497	21,491
特別償却準備金	3	7
固定資産圧縮積立金	3,084	3,973
別途積立金	18,410	17,510
当期末処分利益	3,750	3,111
その他有価証券評価差額金	6,364	3,936
自 己 株 式	△ 214	△ 177
資 本 合 計	85,452	82,413
負 債 ・ 資 本 合 計	184,818	301,285

## 単独損益計算書

(単位：百万円)

区 分	当 期	前 期
	2005年4月1日から 2006年3月31日まで	2004年4月1日から 2005年3月31日まで
高 価 損 失	—	374,117
原 利 益	—	301,000
上 総 一 般 管 理 費 用	—	73,117
上 及 び 業 業 費 用	—	66,618
業 業 費 用	15,512	—
業 業 費 用	9,294	—
業 業 費 用	6,218	6,498
業 外 収 益	1,700	2,176
受取配当金	986	371
受取配当金	494	1,208
その他の営業外収益	219	596
業 外 費 用	1,039	1,823
支払利息	560	722
社債利息	409	500
コマーシャルペーパー利息	1	1
貸倒引当金繰入額	—	27
その他の営業外費用	66	571
常 利 益	6,879	6,851
別 利 益	2,112	3,106
固定資産売却益	1,498	365
投資有価証券売却益	541	1,286
関係会社株式売却益	39	277
貸倒引当金戻入益	32	268
転籍に伴う退職給付債務戻入益	—	908
別 損 失	5,107	5,671
固定資産売却損	677	649
固定資産除却損	161	377
減損損失	4,181	—
関係会社株式評価損	86	1,757
特別退職金	—	971
販売用不動産評価損	—	942
持株会社体制移行関連費用	—	441
関係会社整理損	—	310
先渡契約損失	—	158
投資有価証券評価損	—	62
税 引 前 当 期 純 利 益	3,884	4,286
法人税、住民税及び事業税	204	46
過年度法人税等戻入額	—	298
法人税等調整額	1,082	2,484
当 期 純 利 益	2,597	2,053
前期繰越利益	2,083	2,038
合併による未処理損失受入額	—	49
中間配当額	930	931
当 期 未 処 分 利 益	3,750	3,111

(注) 1株当たり当期純利益 8円25銭

## 利益処分

(単位：円)

区 分	金 額
【当期末処分利益の処分】	
当 期 未 処 分 利 益	3,750,216,012
任 意 積 立 金 取 崩 額	2,324,320,653
特別償却準備金取崩額	3,677,922
固定資産圧縮積立金取崩額	2,320,642,731
合 計	6,074,536,665
これを次のとおり処分いたしました。	
利益配当金(1株につき6円)	1,861,739,628
取 締 役 賞 与 金	35,000,000
任 意 積 立 金	2,100,000,000
別 途 積 立 金	2,100,000,000
次 期 繰 越 利 益	2,077,797,037
【その他資本剰余金の処分】	
そ の 他 資 本 剰 余 金	16,101,906,298
資本準備金減少差益	16,100,000,000
自己株式処分差益	1,906,298
その他資本剰余金次期繰越高	16,101,906,298
資本準備金減少差益	16,100,000,000
自己株式処分差益	1,906,298

(注) 2005年12月6日に930,966,621円(1株につき3円)の中間配当を実施いたしました。

当期の利益配当金につきましては、当社創立60周年にあたることから、株主の皆様へ感謝の意味を込めまして、1株につき普通配当3円に記念配当3円を加え、合わせて6円とさせていただきます。  
これにより中間配当金3円を含めた当期の年間配当金は1株につき9円となります。



## スポーツ支援

ニチレイは、皆様の食生活と深い関わりを持った事業を展開するとともに、健康を支える大きな要素であるスポーツの支援に取り組んでいます。しっかりとした食事の習慣はもちろんのこと、日頃から運動習慣をつけることが大切です。当社は20年以上にわたりゴルフイベントを応援しており、昨年度より身近な運動の機会作りから世界の舞台上で活躍する選手の応援まで、様々なスポーツを様々な場面で積極的に支援しています。

### 日テレ・ベレーザ

日テレ・ベレーザは、1981年に読売サッカークラブの女子チームとして創設されて以来、常に日本の女子サッカー界をリードしてきました。アテネオリンピックで活躍し、「なでしこジャパン」の愛称で親しまれた日本代表選手の多くは日テレ・ベレーザに所属しており、昨年は国体、日本女子サッカーリーグ（通称：Lリーグ）、全日本女子選手権をすべて負けなしで制覇、三冠を達成しました。このようなトップクラスの選



▲ニチレイサッカー教室  
◀日テレ・ベレーザ選手から直接指導を受ける子どもたち

手から直接学べる場として、小学生の女子チームを対象としたサッカー教室を定期的で開催しています。



たくさん子どもたちが、検定に挑戦



「泳力検定会」ポスター

### 日本水泳連盟・泳力検定

水泳の実力を測定する泳力検定は、日本各地の学校やスイミングクラブ等で独自の基準で行われていました。1998年4月に（財）日本水泳連盟が統一基準の泳力検定制度を発足させ、2004年11月から同連盟傘下のスイミングクラブ等では「ニチレイチャレンジ Swimming Badge Test」と冠して泳力検定を実施しています。受検者の多くは、未来を担う小学生以下の子どもたちです。

### ニチレイレディス

女子プロゴルフトーナメントとの関係は、1984年の「ニチレイカップ日米女子プロゴルフチーム選手権」に始まりました。22年目となった昨年は、（財）日本ゴルフ協会（JGA）主催のナショナルオープン「第38回 日本女子オープンゴルフ選手権競技」に特別協賛、国内最高峰のプレーは大いに注目されました。今年は6月16日（金）～18日（日）の3日間、茨城県的美浦ゴルフ倶楽部にて、よそおいも新たに「ニチレイレディス」を開催しました。ゴルフをより自由に、自分のペースで末永く、そして色々な家族の形での



昨年、特別協賛した「日本女子オープンゴルフ」



6月に開催された「ニチレイレディス」

かかわりを持てる生涯スポーツとしてとらえ、これまでとは一味違った大会に育てていくことをめざしています。



スケートキッズ・ツアー 2006



トリノオリンピック直後の開催で大いに盛り上がりました。

### シアターオンアイス

女子選手を中心に世界レベルでの活躍が注目されているフィギュアスケート。本年3月、華麗な演技で世界を魅了したトリノオリンピックで金メダルに輝いた荒川静香選手を始め、歴代のメダリストおよびプロスケーターを招待し、今までにないアイスショー「ニチレイアセロラ presents Theater on Ice 2006」を開催しました。ショーに先立ち、スケート教室に通う子どもたちを招待し、キッズ・ツアーも実施。一流選手との交流で、子どもたちの目は輝いていました。



# Introduction

ご好評の商品をご紹介します。

## シェフの逸品ランチ ハンバーグ (デミグラスソース)

家庭用



「シェフとニチレイが作る、とっておきの  
お弁当メニュー」がコンセプトの新シリー  
ズ。ハンバーグは、小川軒・小川洋シェフ  
にお手伝いいただきました。ジューシーで  
やわらかなハンバーグにこだわりのデミグ  
ラスソースをかけた逸品です。

※シリーズ品として、ビーフコロッケ (たいめい  
けん)、海老のチリソース煮 (新橋亭)

## お弁当にGood! ひれカツ

家庭用



やわらかくジューシーでお肉の旨味あふ  
れる「ひれカツ」。ちょっと大きめサイ  
ズなので、食べ盛りの中高生や大人にも満  
足いただけます。時間が経ってもサクッ  
とした衣が自慢です。着色料・保存料・化学  
調味料を使用しておりません。

## アセロラドリンク

家庭用



アセロラドリンク発売から20年。アセ  
ロラ果汁由来の天然ビタミンCと、アセ  
ロラポリフェノールが入った健康習慣飲料。  
すっきりとした後味と爽やかな喉ごしに  
なりました。幅広い層から人気を得てい  
るラインナップです。

※左より、200ml、190g缶、900ml PET、280ml PET

## VegeDelica 海老カツレツ&4品目のペッパーサラダ

業務用



海老がごろっと入った旨味たっぷりの海  
老カツレツ。4品目 (ブロッコリー、いん  
げん、ヤングコーン、アスパラ) に黒コショ  
ウとバターを効かせたドレッシングがおい  
しいサラダをセットしました。彩りと健康  
に配慮した新シリーズです。

※シリーズ品として、デミグラスハンバーグ&ジャ  
ーマンボテト、クリームコロッケ (海鮮入り) & 彩り  
温野菜サラダ

## ハイカラ的洋食屋の オムライス (デミグラスソース付き)

業務用



とろっとした表面とふんわり食感の卵  
シート、トマトの風味が活かしたチキンライ  
ス、コクのあるデミグラスソースをセッ  
トしました。蒸し・ポイル調理可能で、忙  
しい時間帯や夜間の人手の少ないときにも  
素早く提供いただけます。

※ソースなしもあります。

## レストランユース ビーフカレー英国風

業務用



香り立つスパイスブレンドとフルーティ  
な後味。香味野菜 (セロリ、玉ねぎ、にん  
じんなど) を溶け込ませた奥行きのある風  
味が英国風カレーのおいしさを引き立て  
ます。200gと3kgの2規格で、用途に合わせ  
てご利用いただけます。

# おいしさの工夫

当社の商品を使った調理例をご紹介します。



Recipe

## ひれポークソースかつ丼

### 材料1人分

ごはん 200g、キャベツ 1/2枚、ミニトマト 1個、ピーマン 1/3個、  
白ごま 少々、とんかつソース 適宜、塩・サラダ油 少々

●お弁当にGood! ひれカツ 3枚

### 作り方

- ① ひれカツは、パッケージ裏面を参照し、電子レンジで加熱します。
- ② ミニトマトは4つ割、ピーマンは斜め切りにして、塩・サラダ油少々をまぶし、  
電子レンジで20秒加熱します。
- ③ 器にごはんを盛り、千切りキャベツをひきます。その上にたっぷりとソースを絡めたひれカツを盛ります。
- ④ 最後に、ミニトマトとピーマンを飾り付け、白ごまをふります。



Recipe

## 和の豆まめアセロラ羹

### 材料5~6人分

砂糖 50g、粉寒天 4g、水 100cc、あんずシロップ漬け 4個、  
A (砂糖 大さじ2、塩 少々)、甘納豆 (うずら豆) 大さじ2

●アセロラドリンク190g缶 1缶

●塩ゆでそら豆 50g

### 作り方

- ① あんずは水気を切り4等分、甘納豆はザルにのせ熱湯をかけ表面の砂糖を除き、水気を切ります。
- ② 塩ゆでそら豆は半解凍の状態で皮をむき、小さめの容器に入れます。Aを加え電子レンジ強で2分加熱し、その  
まま冷まし水気を切ります。
- ③ 小鍋に100ccの水と粉寒天を合わせ、たえずかき混ぜながら、弱火で2分ほど煮て、砂糖50gを加えます。
- ④ ③にアセロラドリンクを加え、①と②を混ぜ合わせ、水で濡らした容器に手早く流し入れます。
- ⑤ ④を冷やし固め、お好みの大きさにカットします。

※粉寒天の水量を少なくしているため、煮詰める際は、火加減に気をつけてください。

※アセロラドリンクは、あらかじめ室温にしておきます。(冷たい状態ですと、寒天液がすぐに固まってしまいます。)



## 株式の状況 (2006年3月31日現在)

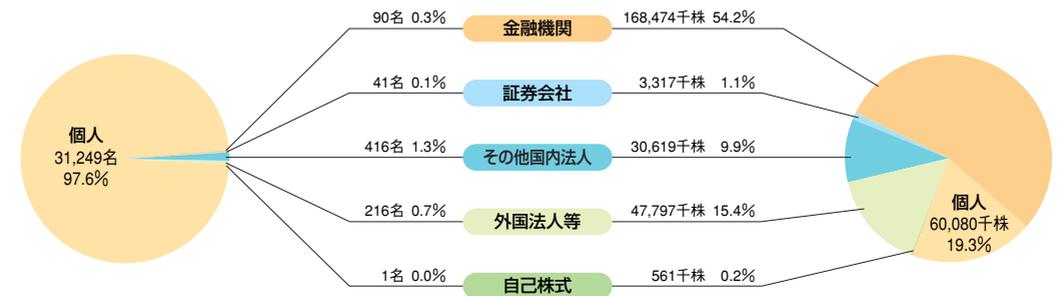
発行可能株式総数	720,000,000株
発行済株式総数	310,851,065株
単元株式数	1,000株
株主数	32,013名

### 大株主

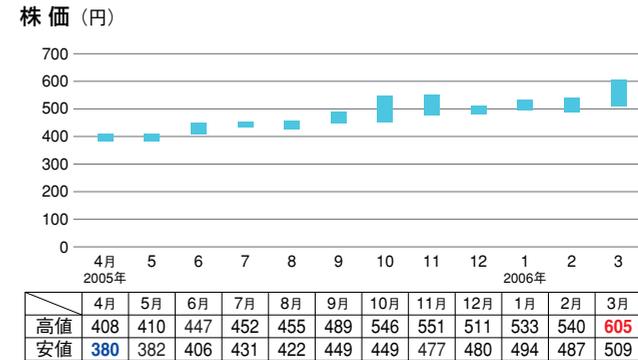
株主名	持株数(千株)	議決権比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	28,347	9.2
日本生命保険相互会社	16,785	5.4
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	15,945	5.2
株式会社三菱東京UFJ銀行	13,903	4.5
株式会社損害保険ジャパン	12,059	3.9
みずほ信託退職給付信託 みずほコーポレート銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託	8,056	2.6
株式会社みずほコーポレート銀行	7,314	2.4
第一生命保険相互会社	5,716	1.9
みずほ信託退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託	5,598	1.8
農林中央金庫	5,350	1.7

(注) 持株数は千株未満を切り捨てて表示しています。

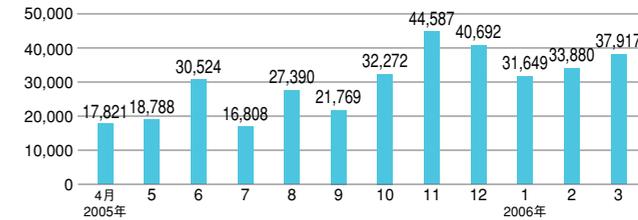
### 所有者別株主数分布状況



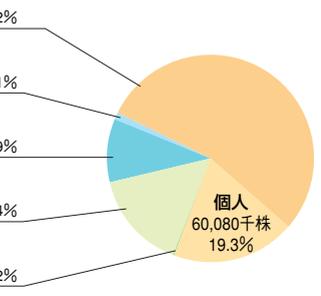
### 株価チャート



### 出来高 (千株・月間合計)



### 所有者別株式数分布状況



## 会社概要 (2006年6月27日現在)

社名 株式会社ニチレイ

所在地 〒104-8402 東京都中央区築地六丁目19番20号  
ニチレイ東銀座ビル

設立 1942年12月

代表取締役 会長	大戸 武元
代表取締役 社長	浦野 光人
取締役 常務執行役員	荒 昌裕
取締役 常務執行役員	相馬 義比古
取締役 執行役員	長谷川 寿
取締役 執行役員	村井 利彰
取締役 執行役員	三田 勇太郎
社外取締役	廣瀬 光雄
社外取締役	炭谷 俊樹
社外取締役	川俣 美由里
監査役	井上 康之
監査役	永塚 一昭
社外監査役	河上 和雄
社外監査役	佐藤 正昭
執行役員	山本 宏樹

会計監査人 新日本監査法人  
東京都千代田区内幸町二丁目2番3号 日比谷国際ビル



(株)ニチレイ本社ビル

<http://www.nichirei.co.jp/>

情報満載のホームページ

3月末に、ニチレイグループWebサイトとしてリニューアルオープンしました。

事業紹介や投資家向け情報はもちろん、皆様のお役に立つ商品・サービス情報を掲載しています。

